

CASBEE 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都役行者開発	階数	地上5F
建設地	京都市中京区室町通神小路下る役行者町361番、363番、365番	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	0時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2018年7月2日
敷地面積	1,185.29 m ²	作成者	株式会社大林組大阪本店 一級建築士事務所奥田 英雄
建築面積	946.52 m ²	確認日	
延床面積	3,983.19 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	87%
③上記②以外の	87%
④上記+	87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 3.9

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合 高効率機器及び高断熱仕様の断熱材を採用することで、省エネルギー性に配慮し、冷暖房負荷を軽減し、環境負荷を低く抑えられる建築物となるように配慮した。また、外部に面して格子状ルーバーを採用し、昼光利用を計画するとともに、グレアの抑制に努めた。		その他 京都という町並みに溶け込むように、外部格子ルーバーや庇などを道路に面して積極的に採用し、地域のシンボルとなる建物となるように計画した。
Q1 室内環境 落ち着いた室内環境となるように、遮音性能の高い窓を採用したほか、吸音材を積極的に採用した。また、シックハウス対策として、F☆☆☆☆の建材を全面的に採用した。	Q2 サービス性能 配管部材及び空調換気ダクトについては、耐用年数の長いものを採用したほか、長期に建物を使用するにたあたり、維持管理が容易な部材の選定及び室の配置計画を行った。	Q3 室外環境 (敷地内) 従来の建物の一部を取り壊すことなく保存し、道路に面して配置することで、地域文化に貢献した建物となるよう配慮した。また、道路に面して一部セットバックした基準階プランとすることで圧迫感を与えない建物となるように計
LR1 エネルギー 断熱材は高断熱能のものを使用し、建物内設備にはLED照明等高効率設備を採用することで、建物から発生するエネルギー量の低減に努めた。	LR2 資源・マテリアル 外壁にはGL工法を採用することで、経年劣化による改修の際に仕上材と躯体が容易に切り離して施工が出来るように配慮したほか、リサイクル材を積極的に採用した。	LR3 敷地外環境 建設に伴って発生するCO ₂ の発生量を低く抑えることで、地球温暖化に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される